

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和8年1月30日(金)

みんなの居場所

The greatest risk is standing still. 現状を維持しようとする事が最大のリスクである。英語の格言

現状維持、前列踏襲…、現状認識をせずに課題から目を背けているような言葉だと思う。先が見通せない時代だからこそ新しい課題に新しい手段や方法で取り組み、新しい価値や文化を生み出していきたい。

徒然

先日、人間ドックに行った。年齢的に体調管理には気を遣う。10年ほど前から微妙な変化が出てきていることから、毎度のドックにてお医者様に尋ねてみる。「この数値は心配しなくてもいいのでしょか？」と返ってくる言葉はこうだ。「大丈夫です、心配いりません。加齢によるものです。」お医者様に言わせれば、私は年齢的にはまだまだ健康な方らしい。そして最後に告げられることは「この体重を維持できるように努力してください。食事は塩分控えめに。」

卒業別感 言葉の真意を考へる

最近、よく聞くようになったことがあります。それは、相手の発した言葉の裏にある本当の意味、真意についてです。この人は一体何を言いたいのか、それを冷静に考えること、あるいはこの感謝の気持ちになります。こんなことを書くのは、私自身の今までの経験が基になっています。人付き合いの中には「良かれ」と思っている言動行動がありますよね。私も「良かれ」と思っていたことが裏目に出るものが多々あります。そんな時心の中でつぶやいてしまいます。「あなたのためにやっているあげたのに！ それ自分からしないの？」学校でもよくやっています。子ども達への何気ない一言、私は「良かれ」と思って指導助言をしていますので、納得していない顔を見たり、保護者の皆様から連絡を頂いた時には、「またやってしまったか…」と反省する毎日です。

中学校へ進学する子ども達に伝えておきたいこと(自戒も含めて)「言葉の裏にあるものを考える大切だ」があります。先生方の指導の裏にある本意を考えてほしいのです。そうすることで、「先生方(友達)は私達のことを考えている」と言ってくれたんだ。」という気持ちになり、それに対する感謝の念も生まれてきます。これからの学生生活の中では特に必要ですね。中学校での生徒指導などは「タメなことはタメ」「是々非々」という視点で厳しく指導されますので、その度に態度を崩してはいけません。その人は損をするようになります。どのような場面でも損をするのか、それは端的に言えば3年後に分かるということでしょうか。最近の学習塾ではこういった態度や身なり、様子を巡っていろいろあるようです。なかなか難しいことですが、「言葉の真意」を考えながら人と接することができれば、先生方や友達との付き合いも円滑に行われ、楽しい中学生3年間になっていきたいと思います。

シリーズ「自分を語る」#7-1

「先生、ほかに仕事はありませんか?」「手伝いまいしょうか?」等の声が聞かれるようになった。自分意識が芽生えてきた証拠と言えます。そこで、私は子ども達に「うん」と言いました。

「学校の仲間のため、自分に何ができるかを考えてください。」

「3年1組で直した方がいい所はないか?」何をすべきかを考えてください。」
本来であれば「何かしたい」と思っているのだから、退屈は大嫌いです。退屈な集団には必ず問題が起きます。問題を怒らないようにするために、子ども達に暇を与えず「何かしたい」という欲求を満たす。そのための課題解決に対して、常に取り組みを促していくことが重要です。私は当時、あつちあつちの手段を講じて、子ども達に仕事をさせました。これが奏功しました。1学期の半ばには、ある程度の自治が成り立っていました。

次の課題は、あるやんちゃな男の子の「我がまま」でした。△男は2年生の頃からいわゆる力強い存在で、△男が言えは悪いことでも悪いことでも集団の基準になっていた。私は△男を学校の配役の役には、△男は少々荒療治に出ました。彼にどうしてそれは必要なのか、是々非々の判断力を育てるために重要な取組です。

ある日、△男は友達をいじめました。幸いすぐに発覚し、長期にわたることはなかった。それで終わってはいけません。私は学級会で△男のしたことについて話し合います。△男は「僕は悪くない」と断言していますが、謝罪は済むか自分か認めたから済むというふうなことで済ませたくありません。△男は話し合っただけで済ませました。そして、悪いことは悪いと言え、集団に作り上げるべく、戦術を練りました。これまでは△男の顔色を窺ってばかりで、善行を躊躇していた子ども達に打ちました。休み時間や給食時間などに「正しいことを言っている人は、先生は徹底的に味方するよ」と伝え、学級会で自由な発言を促しました。

狙いは的中し、子ども達のそれまで積み重ねた△男への不満が爆発しました。学級会から発言できたので、是々非々の通る集団にしたいという、子ども達の切なる願いがあったのです。主体的な話し合いを見ながら、担任として手助けを感じつつ、最後に全体に話をしました。

「△男、お前はみんなから良いことを教えてもらった。そして、どうもみんなはそれまでずっと許してくれていた。そして、みんなは…」
みんな無言で「うん」と笑っています。△男もちやうど涙ぐみながら笑っていました。そして、3年1組は楽しい時間を過ごしていきたくてなりました。

さて、これから先は担任としての腕の見せ所です。とにかく暇を与えないことが問題が起きます。暇を与えないためには、そうですね、大体3ヶ月スパンで目標設定が必要があります。何かでしょうか。(つづく)